

製品名: IL-6R α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab12565**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	53kDa

抗原情報

遺伝子名	IL6R
別名	IL6R; Interleukin-6 receptor subunit alpha; IL-6 receptor subunit alpha; IL-6R subunit alpha; IL-6R-alpha; IL-6RA; IL-6R 1; Membrane glycoprotein 80; gp80; CD126
遺伝子 ID	3570.0
SwissProt ID	P08887
免疫原	抗血清はヒト IL6R の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 221-270

背景

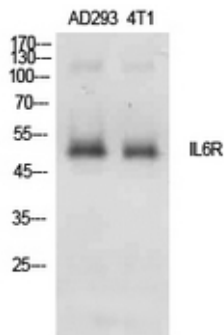
この遺伝子は、インターロイキン 6 (IL6) 受容体複合体のサブユニットをコードしています。インターロイキン 6 は、細胞の増殖と

分化を制御し、免疫応答において重要な役割を果たす強力な多面的サイトカインです。IL6 受容体は、このタンパク質と、他の多くのサイトカインにも共通する受容体サブユニットであるインターロイキン 6 シグナル伝達タンパク質 (IL6ST/GP130/IL6-beta) からなるタンパク質複合体です。IL6 とこの受容体の産生異常は、多発性骨髄腫、自己免疫疾患、前立腺癌など、多くの疾患の病因に関与しています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。この遺伝子の擬似遺伝子は 9 番染色体上に存在する [RefSeq 提供、2011 年 5 月]。ドメイン: N 末端部に含まれる 2 つのフィブロネクチン III 型様ドメインは、サイトカイン結合ドメインを形成する。ドメイン: WSXWS モチーフは、適切なタンパク質フォールディング、ひいては効率的な細胞内輸送と細胞表面受容体への結合に必要と考えられる。機能: 低濃度の可溶性 IL6 受容体は、IL6 活性のアゴニストとして作用する。機能: インターロイキン 6 の受容体の一部。IL6 に低親和性で結合するが、シグナル伝達は行わない。シグナル活性化には IL6ST との会合が必要である。活性化は、免疫応答、急性期反応、および造血の調節につながる可能性があります。、PTM: 短い可溶性形態は、タンパク質分解によって膜から放出されることもあります。、類似性: I 型サイトカイン受容体ファミリーに属します。タイプ 3 サブファミリー。、類似性: フィブロネクチン III 型ドメインを 1 つ含みます。、類似性: 免疫グロブリン様 C2 型 (免疫グロブリン様) ドメインを 1 つ含みます。、サブユニット: IL6、IL6R、および IL6ST の各 2 分子からなる六量体。、組織特異性: アイソフォーム 2 は末梢血単核細胞に発現し、尿および血清中に弱く存在します。、

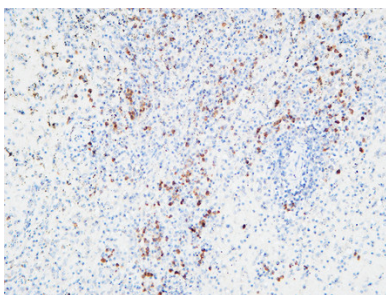
研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用;Jak_STAT;造血細胞系統;

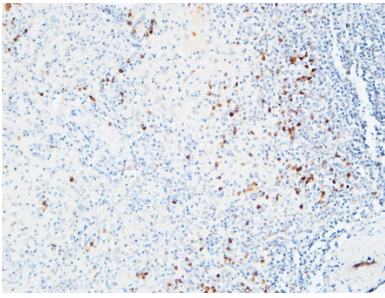
画像データ



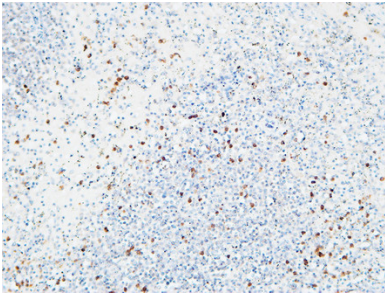
IL-6R α ポリクローナル抗体を用いた AD293、4T1 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈した。



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。



パラフィン包埋ヒト脾臓の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈 (4°、一晚)。2、高圧高温 EDTA (pH8.0) を使用して抗原賦活化。3、二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30分)。